第１学年　道徳学習指導案

指導者　○○○○

１　主題名　やさしくするって、いいきもちだね（Ｂ－６親切・思いやり）

２　資料名『はしの上のおおかみ』　（出典：「みんなのどうとく」１ねん　学研　改作）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

　本時では、内容項目Ｂ「主として人との関わりに関すること」のうち、「親切・思いやり」について扱う。第１学年及び第2学年の内容項目「親切・思いやり」は「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」となっており、他の人に接するときの基本的姿勢に関するものであり、相手に対する思いやりや親切な心をもち実践できる児童を育てようとする項目である。

よい人間関係を築くには、相手に対する思いやりが不可欠である。思いやりとは、相手の立場を推し量り、自分の思いを相手に向けることである。そしてそれは、温かく見守り接することや、相手の立場に立った励ましや援助などを含む親切な行為などとして表れることが期待される。特に、学校においては、多様な人との直接的な関わり合いの機会を多くし、人間愛を根底とした思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが重要である。

　低学年の段階においては、まずは身近な人に広く目を向け、相手のことを考えて温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるよう指導する必要がある。特に、身近にいる人とのふれ合いの中で、相手のことを考え優しく接し、具体的に親切な行為ができるように指導することが大切である。

（２）子どもの実態について

　本学級の児童は、運動場に出てサッカーや鬼ごっこをしたり、ブランコや滑り台などの遊具で遊んだりする元気な子が多い。また、体育でのボール遊びや遊具遊びを通して、友達関係を広げてきた。しかし、ちょっとした言葉の掛け違いから言い争いになり、自分のわがままを通そうとしてけんかをすることも多い。自己中心的な傾向が強く、自分のことで精一杯なため、相手の立場に立って考え、理解した上での行動にはなっていない。親切にすることはよいことであると分かっていても、実践に結びつかないのが現状である。また、その日の気分によって親切にしたりしなかったり、仲のよい友達にだけ親切にする傾向も見られる。

このような子どもたちが、本時を通して、身近にいる友達の立場になって考え、意地悪をしたりわがままを通したりしないで、思いやりの心でどんな人に対しても親切にしようとする心情を育てたい。そして、本当の親切とは、相手の身になって考え行動することであることに気付かせ、優しい気持ちで周りの人に接しようとする心情を育てたい。

（３）資料について

　本資料は、おおかみが、一本橋の上でみんなが来るのを待ちかまえているところから始まる。渡ってくるうさぎに意地悪をして、橋を渡らせず、追い返す。そのうちに、みんなに意地悪することが楽しくなり、きつねが来ても、たぬきが来ても、みんなに意地悪をして、威張って追い返す。ある日、おおかみは、いつものように意地悪をしようと橋に行った。すると、自分より体の大きなくまが橋に立っていた。おおかみは、おどろいて、くまにおじぎをした。くまが思いがけなく親切に、橋を渡らせてくれたことに感激したおおかみは、今までの自分の行動を反省して、みんなに優しく親切にするようになった。弱いものに対して意地悪をし、威張っているおおかみが、自分より大きなくまの優しい心にふれることで気持ちが変化する内容の資料である。なお、うさぎを追い返した場面後、「大いばり。とおせんぼが面白くなりました。」を「大いばり。いいきもちになりました。」という文章に置き換え、おおかみの気持ちの変化に子どもたちが着目しやすくした。

　小学校に入学し、友達関係に広がりが見られる時期ではあるが、自己中心的な面がまだ多く、相手を思いやることができずにいさかいを起こしてしまうことは、低学年の子にとってよくあることである。本資料は、自己中心的なおおかみの心の変化を、自分に置き換えて考えさせることができ、友達への関わり方をふり返るのに最適であると考えた。この資料を通して、相手に対する優しい心遣いが、自分の心も温かく気持ちよくすることに気付かせ、ねらいとする価値に迫りたい。

４　指導に当たって

（１）指導方法の工夫

　導入では、自分の今までの生活経験を振り返らせたい。親切にしてもらってうれしかった経験を思い出し、発表することでねらいとする価値への方向付けをする。

資料を範読する際には、場面絵や登場人物の絵を提示しながら読み進めることで、子どもたちの思考を助けたい。その際に、読み聞かせながら場面絵を黒板に貼っていくことで、物語の展開を視覚的に理解させたい。

展開前段では、場面ごとにおおかみの心の変化がはっきりしているので、役割演技で登場人物になりきって考えさせる。おおかみになりきって演じることで、おおかみが意地悪をしているときの心境を十分に想起させ、その後、おおかみの気持ちが変化していく様子を捉えさせたい。中心発問の「くまの後ろ姿を見送りながら、おおかみは何を考えていたでしょう」では、吹き出し入りのワークシートを用意して、そこに書き込ませることで、おおかみの気持ちを考えやすくさせる。威張っていたおおかみがくまの優しさにふれて、自分の中で気持ちが変わる場面を大切にし、じっくりと児童が考える時間を取りたい。さらに、うさぎを下ろした後の、おおかみの気持ちを考えさせることで、優しくていい気持ちになったことに気付かせる。そして、補助発問「２つのいいきもちは同じなのかな。」と聞くことによって、親切にすると自分も相手も優しく温かい気持ちになることを感じ取らせたい。

展開後段では、今まで自分が優しくしたり、されたりした経験をふり返らせたい。周りの人に、親切にすることの大切さや喜びを感じ取り、相手との関わり方を考えて、親切をしたときの、ほのぼのとした心地よさを十分に膨らませ、ねらいに迫っていきたい。

（２）他の教育活動との関連

　朝や帰りの会などで、「いいきもちカード」を書いて発表する場を設け、その日にあった友達に優しくしたり、してもらったりしたことを発表させたい。相手を思いやることの良さを互いに認め合う経験を多くし、今後も継続的に指導していきたい。

５　本時の指導

（１）ねらい

　身近な人を思いやり、だれに対しても温かく優しい心で接しようとする心情を育てる。

（２）準　備

　お面（おおかみ、くま、うさぎ）、場面絵、ワークシート、低台１

（３）展　開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 段階 | 学　習　活　動　・予想される子どもの反応 | ◇教師の支援　　◎評価 |
| ５分 | 導入  親切にされて嬉しかったことにはどんなことがありますか。 | １　今日の学習のねらいを確認する。  ・消しゴムを忘れたときに、貸してくれた。  ・友達がけがをしたときに、保健室に連れて行ってくれた。 | ◇身近な生活経験の中から考えさせることによって、ねらいとする価値への方向付けをする。 |
| ２５分　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　１０分 | 展開前段　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 展開後段  前よりずっといい気持ちだったのはどうしてかな。  **いいきもち**だったおおかみは、どんなことを思ったでしょう。  おおかみのように優しくできたことがありますか。  うさぎを下ろした後、おおかみはどんな気持ちだったでしょう。  くまの後ろ姿を見送りながら、おおかみは何を考えていたでしょう。 | ２　資料「はしの上のおおかみ」を聞いて、考える。  〈おおかみ〉  　　　　　　　　　　　・戻れ！おれの橋だぞ。  ・みんなぼくのことを、怖がっているぞ。  ・ここでは、ぼくが一番強くてえらいぞ。  　　〈うさぎ〉　　　　・みんながどいてくれてうれしいなあ。  ・怖いなあ。  ・意地悪されると困るなあ。  ・今度は、くまさんみたいにしたいな。  ・もう意地悪しないよ。  ・うさぎさんたちに悪いことしたな。  ・ずっと意地悪しちゃったな。  ・優しいな。  ・親切だな。  ・ありがとう。  ・くまさんみたいに、優しくできて**いいきもち**。  ・いままで意地悪をしちゃって、ごめんね。  ・初めは、自分だけ威張っていいきもちだよ。  ・優しくできていいきもちだと思うよ。  ・おおかみもうさぎも、二人ともいいきもちになってよかったね。  **みんなに優しくすると、自分も相手もいいきもちだね。**  ３　今までの自分をふり返る。  ・友達が牛乳をこぼしたときに、ふくのを手伝って、友達も喜んでくれたよ。  ・けがをしている友達の荷物を一緒に運んだよ。そのとき、友達が笑顔だったからうれしかったよ。 | ◇橋に見立てた低台を用意し、役割演技をすることで、おおかみとうさぎの気持ちを十分に感じ取らせる。  ◇後の発問で、相手の気持ちを想起しやすいように、うさぎの気持ちについても、吹き出しで板書に残しておく。  **◇くまの優しい行動にふれ、親切にされて嬉しいおおかみの気持ちを考えさせるために、教師がくま役、児童がおおかみ役の役割演技をする。**  ◇考えやすくするために、吹き出し入りのワークシートを用意し、考えを書く時間を十分に取る。  **◇板書を活用し、「いいきもち」の違いに着目させることで、自分も相手も「いいきもち」になることを感じ取らせる。**  ◎周りの人を思いやり、温かく優しい心で接しようという心情を養うことができたか。（発言） |
| ５分 | 終末 | ４　教師の説話を聞く。  ◇児童の頃、親切にされてうれしかったことを聞かせ、温かく優しい気持ちで周りの人と関わろうとする意欲を高める。 | |

（４）評価

・おおかみの気持ちが変化した様子を考えることで、身近な人を思いやりだれに対しても温かく優しい心で接しようとする心情を養うことができたか。